

【提案理由】

去る2月26日以来、村越市長が市民に説明することも市議会に諮ることもなく、この新第1庁舎の内覧会実施直後に秘密裏に市長室に設置した、ガラス張りシャワールームが全国的な騒動となっております。

この事態を重く受け止めた本市議会は、3月3日、「市長室に設置されたシャワー室を撤去し原状回復を求める決議」を可決致しました。

ただ我々は、この法的拘束力がない厳しさに欠ける決議では、村越市長はシャワーの撤去には応じないだろうと判断し、いわゆる百条委員会の設置を求めこの決議には反対致しましたが、いずれにしても、採決に加わらなかった議長も含めて、事実上42名の全会一致を以て、この市長室のガラス張りシャワーは認められないとの意思表示が示されたものと理解しております。

そして、これは単に本市議会の意思を表明したにとどまらず、多くの市民の声を反映したのもでもありましたので、村越市長もこれを受け、「議決を重く受け止め真摯に対応してまいります」とのコメントをいたしました。多くの市民の方々は、純粋な気持ちで村越市長のこの言葉を重く受け止め、これでシャワーは撤去されるだろう、この問題は解決だ、ようやく市川市が恥ずかしい騒ぎから解放される…と、ほっと胸をなでおろしていたものでした。

ところが、村越市長は、我々が見抜いていた通り、この間シャワーの撤去に応じることはなく、去る6月1日に記者会見を開き、「シャワーの撤去には応じない」「災害時、私が使った後、女性職員に使ってしてもらおう」などと、議会の議決を無視し、市民の声に耳を傾けない態度を明らかにしました。

この村越市長の政治姿勢は、地方自治の根幹を為す「住民自治」をないがしろにするものであり、議会制民主主義をも否定する暴挙であると言っても過言ではありません。

本来であれば、このコロナ禍において、市長は真っ先に市民の暮らしに想いを馳せなければならない、必要とする方々に新型コロナウイルスワクチンを速やかに行き届かせるとともに、市民の方々がこの困難を乗り越えられるよう支援のあり方に知恵を絞らなければならないはずです。そんな本市が困難な状況に置かれている中において、果たして村越市長はこの間何をやっていたのでしょうか？

2月定例会後に発生した客観的な事実を挙げれば、その答えは明らかです。

新型コロナウイルスワクチンの接種予約では、「年齢ごとに順次予約受付を開始することにより混乱を避け、スムーズな予約を実現する」と豪語していたにもかかわらず、案内文の記載の不備により予約や問い合わせのための電話が殺到、コールセンターはパンク状態に陥りました。

また、切り札のネット予約も不手際により一斉予約開始状態となり混乱が生じた挙句、つい最近でも「6時間も7時間もネットが繋がらない」、「画面が分かりにくい」、「自分のPCが壊れているのかと思って再起動を繰り返した」などと、市民の不満が続出していることは皆さんご承知の通りです。

これでは、本市の喫緊の課題に取り組むに際して、村越市長は、首長に求められるマネジメント能力をほぼ発揮できなかったと評価せざるを得ませんし、それどころか、本来やるべきこともやらずに、「いかにして市長室にガラス張りシャワールームを残すか」、「どうすれば自腹を切らなくて済むか」、「私が先にシャワーを浴びるべきか…」、それとも「女性職員に先に使ってもらうべきか…」、そんなことしか考えていなかったと批判されてしまうのも当然のことなのではないでしょうか？

ただでさえ、テスラ騒動に象徴される過去の言動と、定額給付金ダウンロード申請や社会実証実験など失敗続きの市政運営を理由に、多くの市民の方々から「今すぐにでも辞めて欲しい」との批判の声が絶えない村越市長ではありましたが、それでもコロナ禍であることに鑑み、我々は改善を求める申し入れ書を2度にわたり提出することにより、市政運営の正常化が図られるよう努力を繰り返して参りました。しかしながら、事ここに至り、もうこれ以上、村越市長に市長職を託すことはできないとの結論に至りました。

私たちは、仮にここで政治的空白を作ることになったとしても、村越市長には市長の職を辞して頂き、新しい市長の下、オール市川で市民が一致結束してこのコロナ禍を乗り越えることが最善と判断致しました。

村越祐民市長、あなたには今すぐ辞任して頂きたい！ よって、本日ここに不信任決議案を提出致します。

以上